表9　来院までの方法

	症例数	%
自力で来院	2,869	17.0
介助され来院	6,241	36.9
救急車	7,345	43.4
院内発症	354	2.1
その他	113	0.7

表10　発症時症候（複数回答可）

	症例数	%
意識障害	4,277	25.3
言語障害	7757	45.8
頭痛	590	3.5
嘔気・嘔吐	1,175	6.9
めまい	1,449	8.6
視覚障害	745	4.4
運動麻痺	11,955	70.6
歩行障害	6,209	36.7
痙攣	118	0.7
感覚障害	2,593	15.3
その他	558	3.3

表11　脳卒中の既往歴

	症例数	%
あり	5,160	30.5
なし	11,321	66.9
不明	444	2.6

表12　初診医（複数回答可）

	症例数	%
神経内科医	5,212	30.8
その他の内科医	3,625	21.4
脳神経外科医	6,784	40.1
その他の外科医	363	2.1
緊急診療医	1,048	6.2
研修医	1,035	6.1
その他	160	0.9

図17 来院方法

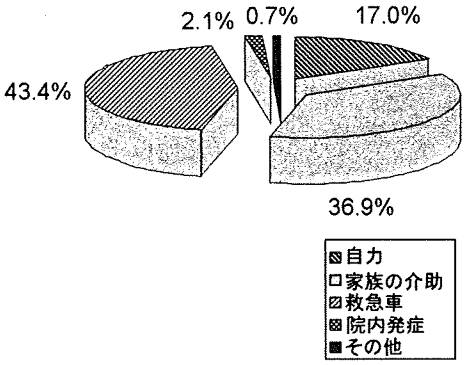


図19 脳卒中の既往の有無

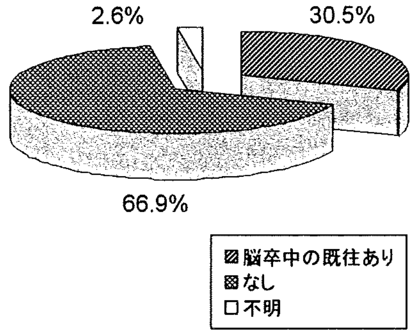


図18 発症時の症候

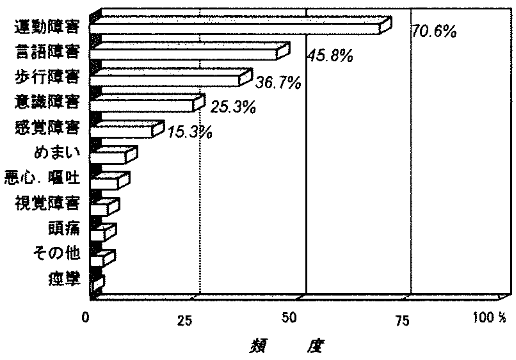


図20 初診時の診療医

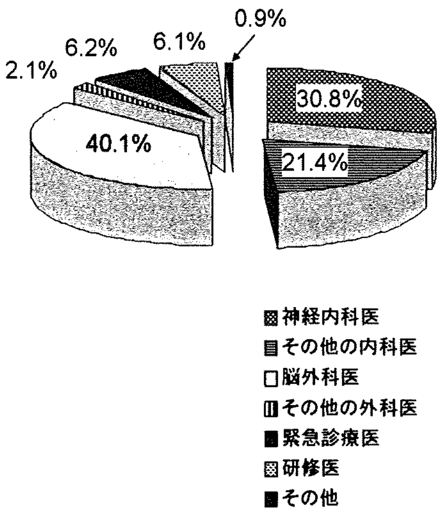


表 13　入院病棟（複数回答可）

	症例数	%
集中治療室	3,173	18.8
一般病棟（脳卒中患者主体）	9,850	58.2
一般病棟（混合病棟）	4,548	26.9
その他	168	1.0

表 14　NIHSS 総点

平均値	8.0±7.9
中央値	5

表 15

NIHSS 総合点	症例数
0	840
1	1592
2	1826
3	1812
4	1549
5	1312
6	1108
7	804
8	683
9	566
10	455
11	395
12	353
13	312
14	302
15	252
16	248
17	250
18	234
19	222
20	219

NIHSS 総合点	症例数
21	206
22	151
23	148
24	145
25	120
26	119
27	102
28	80
29	81
30	74
31	57
32	46
33	46
34	49
35	30
36	36
37	33
38	10
39	18
40	37

図21　入院病棟

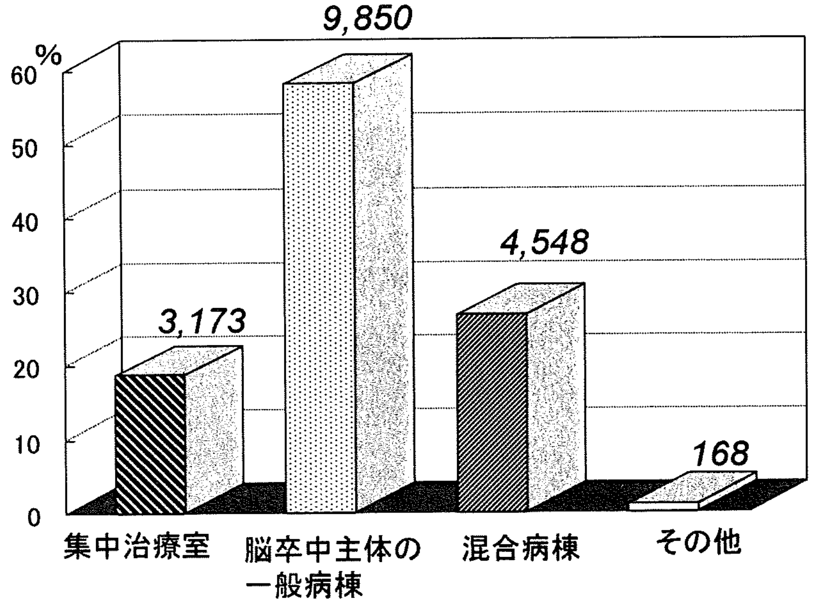


図22　神経症候（発症時）の重症度分布

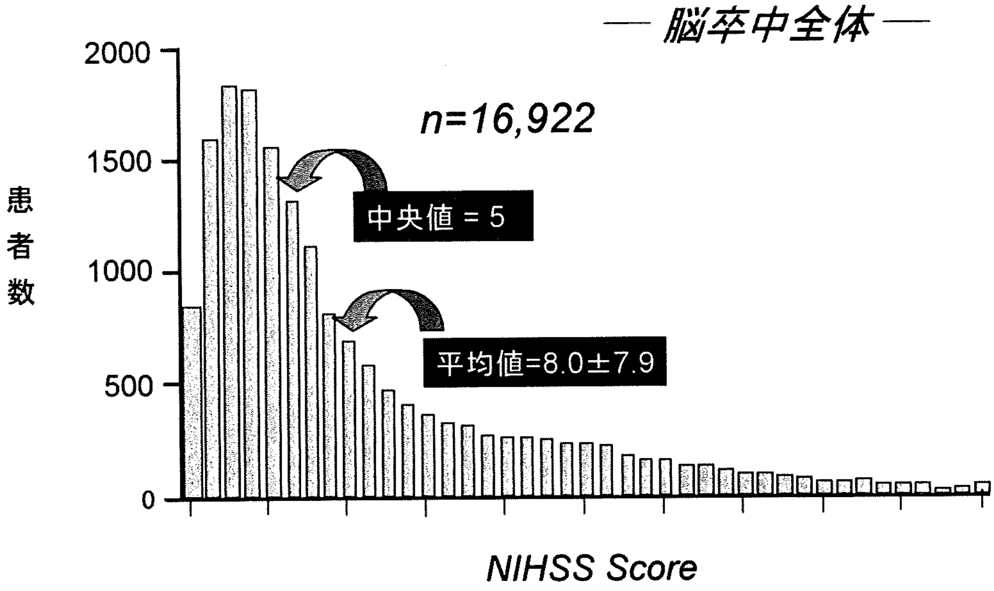


表16　1A　意識レベル

		症例数	%
0	清明	11,332	67.0
2	清明でない	4,962	29.3
3	反応なし	628	3.7

表17　1B　質問に対する反応（現在の月名と年齢）

		症例数	%
0	両方正解	11,739	69.4
1	片方正解	1,311	7.7
2	両方不正解	3,872	22.9

表18　1C　命令への反応（開閉眼と離握手）

		症例数	%
0	両方可能	13,389	79.1
1	片方可能	1,179	7.0
2	両方不可能	2,354	13.9

表19　2　注視　（欠測値あり）

		症例数	%
0	正常	13,522	79.9
1	部分的注視麻痺	1,943	11.5
2	完全注視麻痺	1,444	8.5

表20　3　視野　（欠測値あり）

		症例数	%
0	正常	14,837	87.7
1	部分的な半盲	1,033	6.1
2	完全な半盲	800	4.7
3	両側の半盲	251	1.5

表21　4　顔面麻痺

		症例数	%
0	正常	9,625	56.9
1	軽度の麻痺	4,733	28.0
2	部分的な麻痺	2,120	12.5
3	完全な麻痺	444	2.6

表22　5右　右上肢の運動（欠測値あり）

		症例数	%
0	10秒間90度（仰臥位時45度）に保持可能	9,904	58.5
1	10秒以内に動揺する	2,967	17.5
2	保持可能、10秒以内に下がる	1,777	10.5
3	重力に抗して動かない	902	5.3
4	動かない	1,371	8.1

表23　5左　左上肢の運動（欠測値あり）

		症例数	%
0	10秒間90度（仰臥位時45度）に保持可能	10,439	61.7
1	10秒以内に動揺する	2,441	14.4
2	保持可能、10秒以内に下がる	1,783	10.5
3	重力に抗して動かない	968	5.7
4	動かない	1,290	7.6

表24　6右　右下肢の運動（仰臥位）（欠測値あり）

	症例数	%
0　30度で5秒間保持	10,197	60.3
1　5秒以内に動揺する	2,777	16.4
2　5秒以内に下がる	1,840	10.9
3　重力に抗して動かない	964	5.7
4　動かない	1,142	6.7

表25　6左　左下肢の運動（仰臥位）（欠測値あり）

	症例数	%
0　30度で5秒間保持	10,384	61.4
1　5秒以内に動揺する	2,524	14.9
2　5秒以内に下がる	1,912	11.3
3　重力に抗して動かない	1,037	6.1
4　動かない	1,064	6.3

表26　7　失調

	症例数	%
0　なし	14,599	86.3
1　一肢にあり	1,304	7.7
2　二肢にあり	1,019	6.0

表27　8　感覚

	症例数	%
0　正常	11,005	65.0
1　軽度～中等度障害	4,994	29.5
2　高度障害～脱失	923	5.5

表28　9　言語

	症例数	%
0　正常	12,974	76.7
1　軽度～中等度の失語	1,401	8.3
2　高度の失語	1,069	6.3
3　無言、全失語	1,478	8.7

表29　10　構音障害（欠測値あり）

	症例数	%
0　正常	7,077	41.8
1　軽度～中等度	7,861	46.5
2　高度	1,968	11.6

表30　11　消去／無視

	症例数	%
0　なし	14,499	85.7
1　軽度～中等度	1,333	7.9
2　高度	1,090	6.4

表31　来院後頭部CT・MRIまでの経過時間

	症例数	%
0−30分	10,945	64.7
30分−1時間	4,041	23.9
1−1.5時間	838	5.0
1.5−2時間	395	2.3
2−2.5時間	114	0.7
2.5−3時間	102	0.6
3−3.5時間	64	0.4
3.5−4時間	41	0.2
4時間以上	362	2.1

表32　脳血管の評価（複数回答可）

	症例数	%
脳血管撮影	2,887	17.1
MRA	10,295	60.8
CTアンギオ	796	4.7
頸部血管エコー	5,706	33.7
経頭蓋ドプラ・カラードプラ	568	3.4
その他	571	3.4
なし	2,752	16.3

図23　病院到着—CT / MRI迄の時間

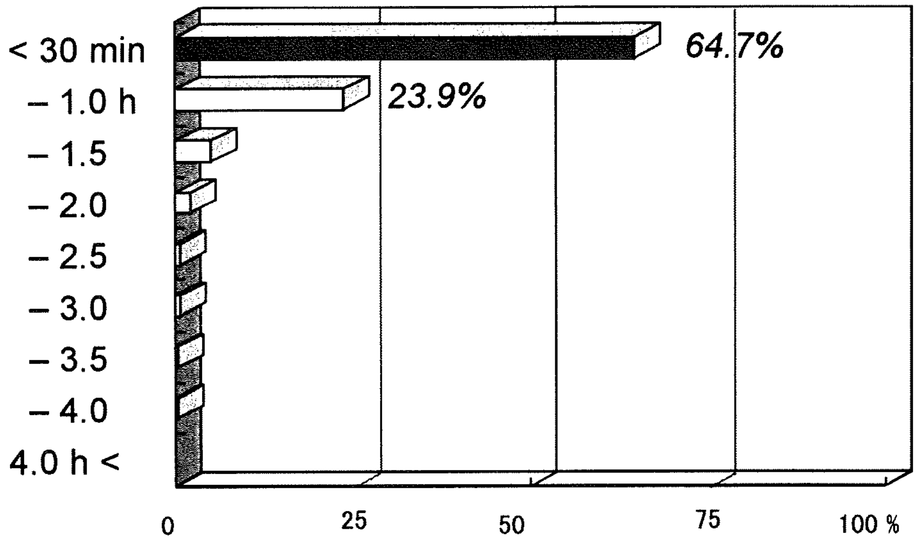
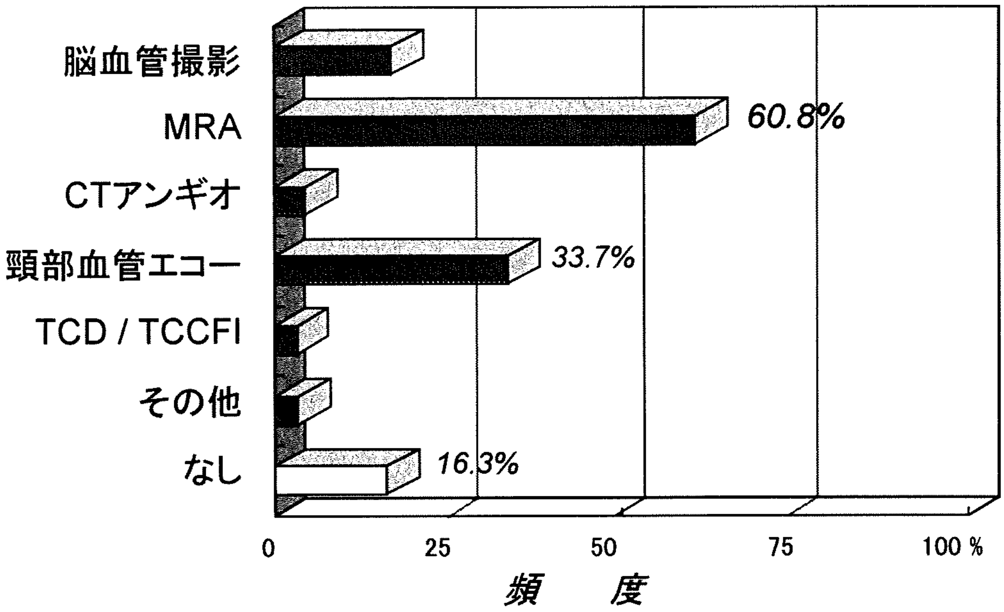


図24　脳血管の評価



急性期の治療（12時間以内）

表33　ウロキナーゼ

		症例数	%
なし		15,895	93.9
あり		1,027	6.1
	経静脈的	750	4.4
	経動脈的	277	1.6

ウロキナーゼ	使用時間（h）	使用量（万単位）
経静脈的	6.9±11.9	10.0±11.5
経動脈的	4.3±6.0	35.9±21.7

表34　t-PA

		症例数	%
なし		16,783	99.2
あり		139	0.8
	経静脈的	50	0.3
	経動脈的	89	0.5

t-PA	使用時間（h）	使用量（万単位）
経静脈的	3.2±1.9	2240±3690
経動脈的	4.8±10.2	690±720

図25　血栓溶解薬(UK)

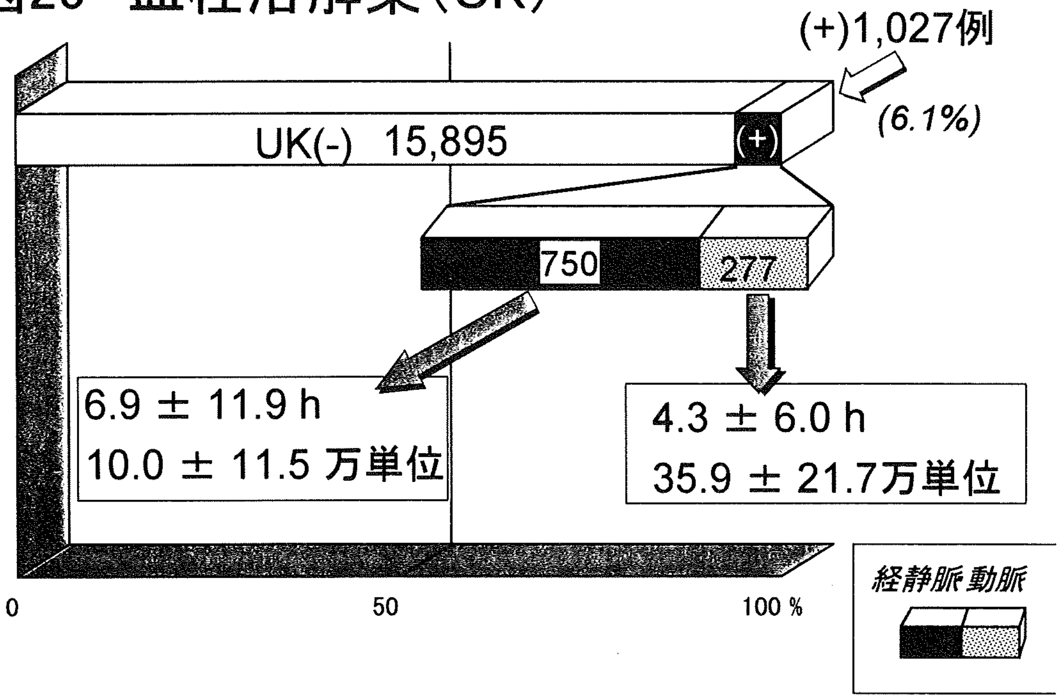


図26　血栓溶解薬(t-PA)

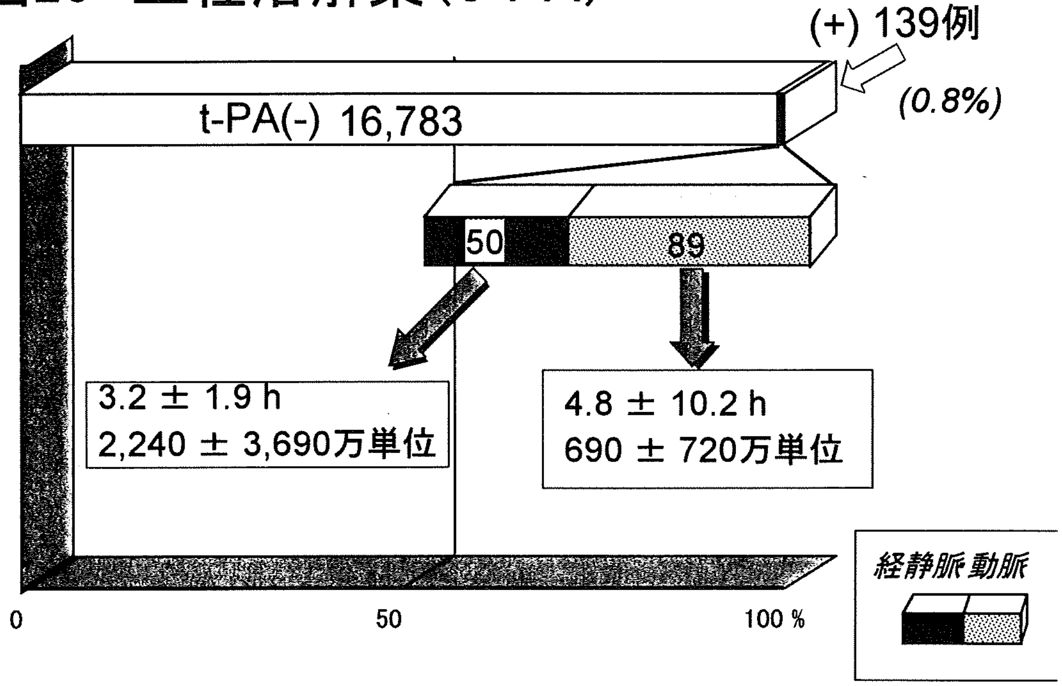


表 35　急性期治療薬（複数回答可）

	症例数	%
ヘパリン	2,761	16.3
アスピリン	1,745	10.3
チクロピジン	2,393	14.1
ワルファリン	1,047	6.2
オザグレルナトリウム	8,242	48.7
ウロキナーゼ	1,108	6.5
アルガトロバン	3,462	20.5
その他（治験薬も含む）	1,466	8.7

表 36　外科治療（複数回答可）

		症例数	%	
なし		16,660	98.5	
あり		262	1.6	
	減圧開頭		106	0.6
	CEA		41	0.2
	ステント		13	0.1
	PTA		54	0.3
	その他		69	0.4

表 37　低体温療法

	症例数	%
あり	32	0.2
なし	16,890	99.8

図27　急性期の薬物治療（重複あり）

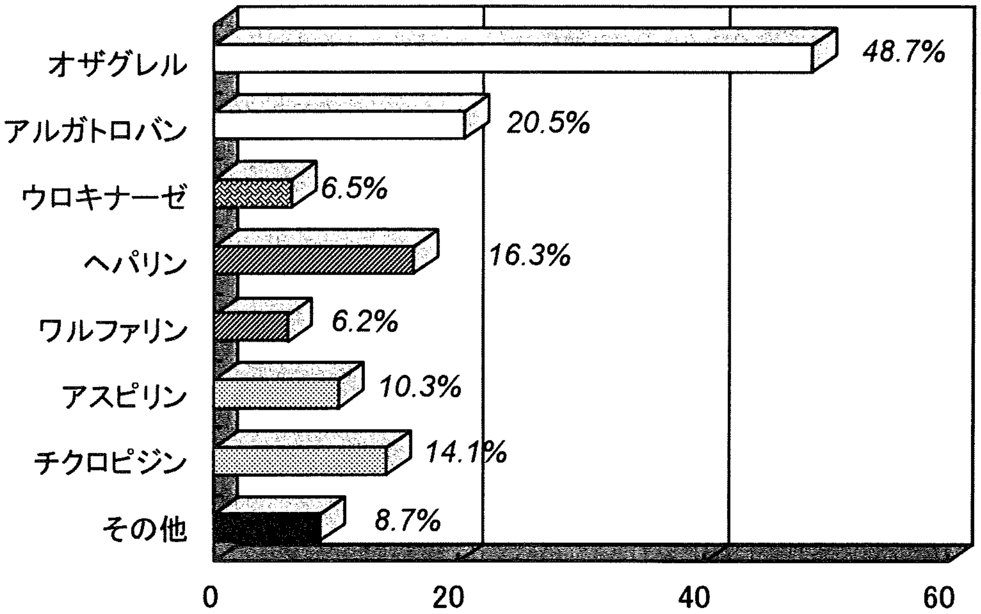


図28　外科治療と低体温療法

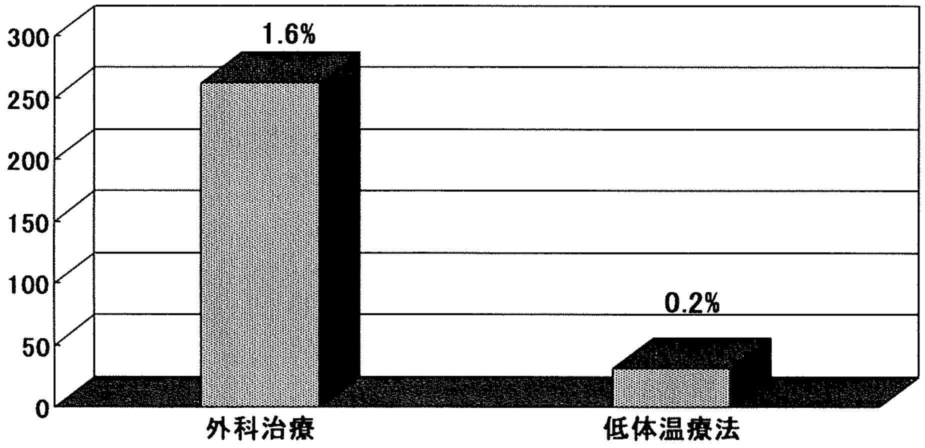


表 38　臨床病型

	症例数	%
ラクナ梗塞	6,145	36.3
アテローム血栓性	5,267	31.1
心原性脳塞栓	3,452	20.4
TIA	1,091	6.4
その他	967	5.7

表 39　病巣部位（血管系別；複数回答可）

	症例数	%
右 ICA 系	5,848	34.6
左 ICA 系	6,746	39.9
VB－PCA 系	4,171	24.6
不明	907	5.4

表 40　危険因子（複数回答可）

	症例数	%
高血圧	10,301	60.9
糖尿病	4,114	24.3
高脂血症	2,836	16.8
心房細動	3,521	20.8
その他の心疾患	2,249	13.3
喫煙	2,966	17.5
その他	971	5.7

表 41　リハビリテーション開始時期（入院後）

	症例数	%
入院日	432	2.6
３日以内	4,987	29.5
７日以内	3,398	20.1
14 日以内	1,546	9.1
21 日以内	315	1.9
28 日以内	118	0.7
29 日以降	61	0.4
軽症のため行わず	4,714	27.9
その他の理由で行わず	1,278	7.6
不明	21	0.1

図29 臨床病型

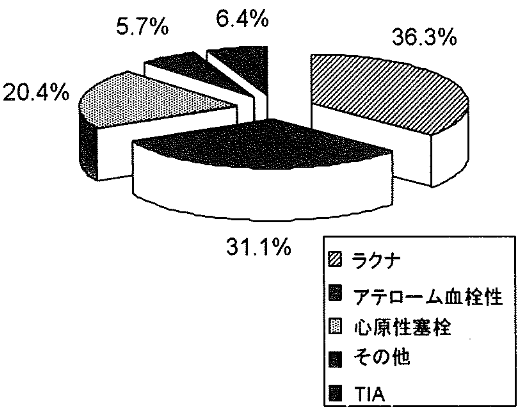


図31 危険因子(重複あり)

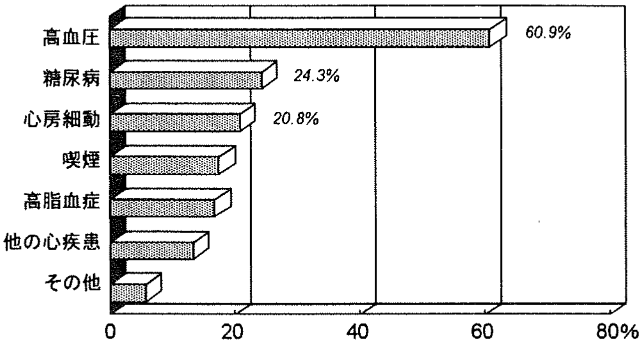


図30 病巣部位(責任血管別)

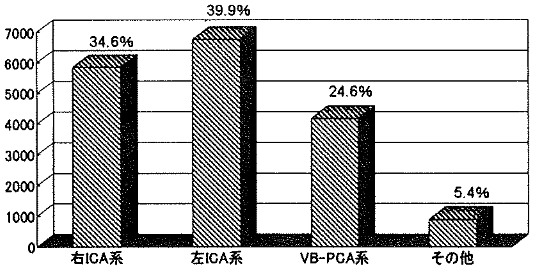


図32 リハビリテーション開始日

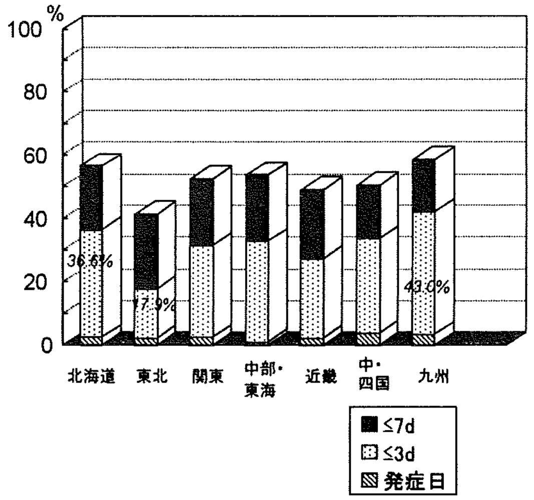


表42　退院時状況

	症例数	%
独歩	9,783	57.8
杖歩行	1,922	11.4
車椅子	2,654	15.7
寝たきり	1,308	7.7
死亡	1,174	6.9
その他	81	0.5

表43　退院時転帰（Modified Rankin Scale；mRS）

	症例数	%
0 全く障害なし	3,137	18.5
1 症状あるが問題となる障害なし	4,873	28.8
2 軽度の障害	2,257	13.3
3 中等度の障害	1,405	8.3
4 比較的高度の障害	2,435	14.4
5 高度の障害	1,614	9.5
6 死亡	1,177	7.0
不明	25	0.1

表44　退院先

	症例数	%
自宅	10,808	63.9
転院	4,209	24.9
リハビリテーション科転科	555	3.3
その他の院内転科	441	2.6
その他	909	5.4

表45　平均在院日数

35.0±33.5日

表46　期間内再発症例215人　（436発作）

1回再発	209人	（418発作）
2回再発	6人	（ 18発作）

図33　退院時のmRS

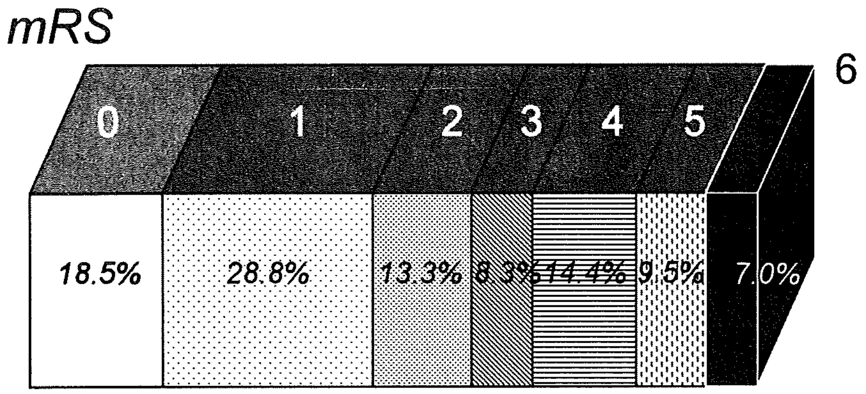
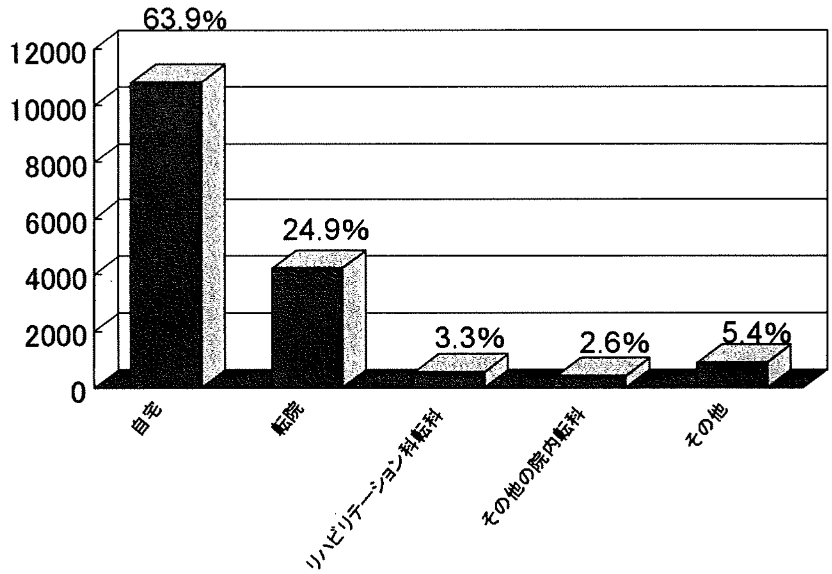


図34　退院先



一次調査（急性期症例登録調査）の個別研究結果

（1）地域別検討

①登録数：関東が最も多かった（図 35）。

②担当診療科：北海道では脳神経外科が圧倒的に多く、近畿・九州では脳卒中診療科が比較的多かった（図 36）。

③救急車の利用：九州で利用率が高く、中部で低かった（図 37）。

④発症から入院までの時間：3 時間以内の入院が東北で多かった（図 38）。

⑤入院病棟：近畿・九州で集中治療室への入室が多かった（図 39）。

⑥30 分以内に CT/MRI を施行した割合：東北・九州で高く、関東で低かった（図 40）。

⑦病型：関東・近畿ではアテローム血栓性の方がラクナより高頻度であった（図 41）。

⑧危険因子：関東・近畿では高脂血症、糖尿病の頻度が高かった（図 42、43）。

⑨急性期薬物治療：地域によって使用薬剤に特徴があった（図 44-47）。

⑩退院時転帰：北海道で軽症例が多く、東北で重症の傾向があったが、おおむね地域差はないと思われた（図 48）。

図35　地域別登録数

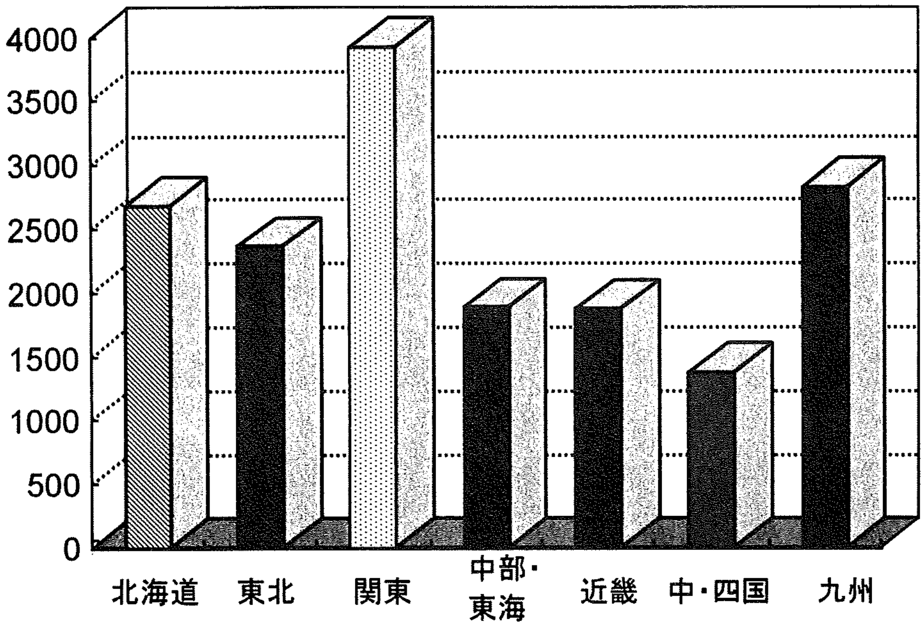


図36　担当診療科

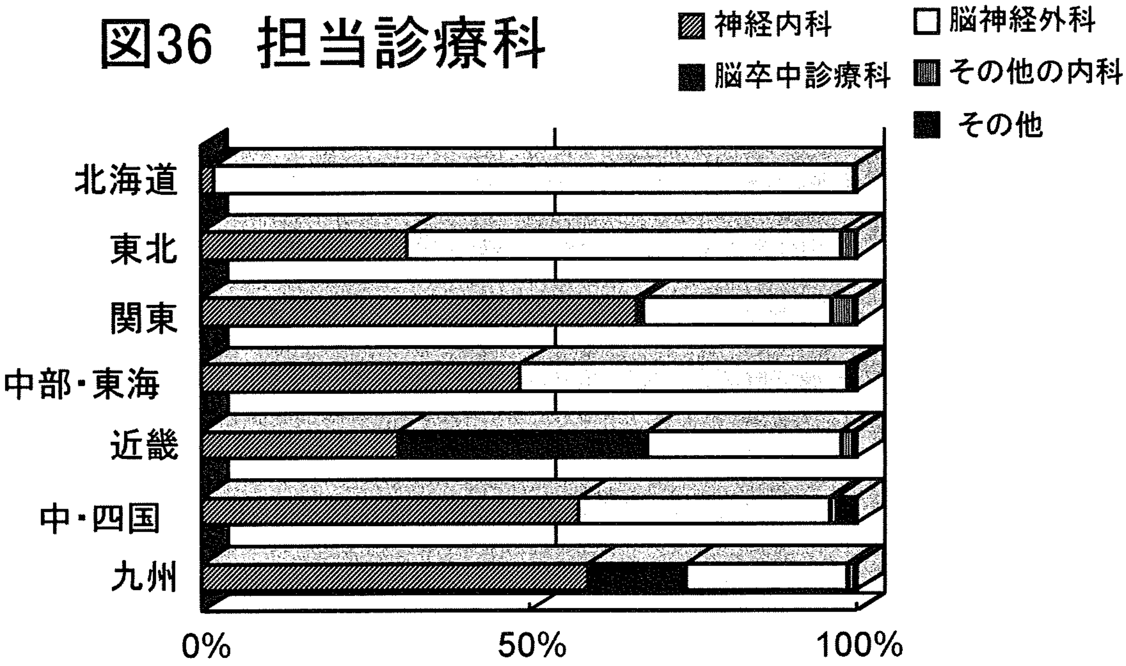


図37 救急車の利用

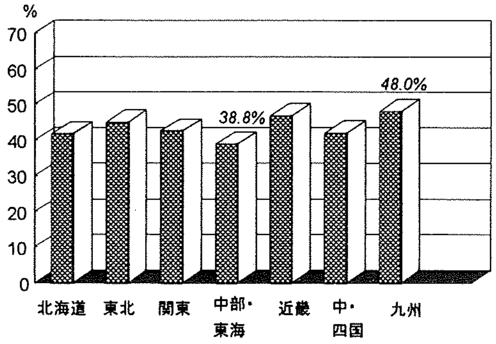


図38 地域別の発症ー入院時間

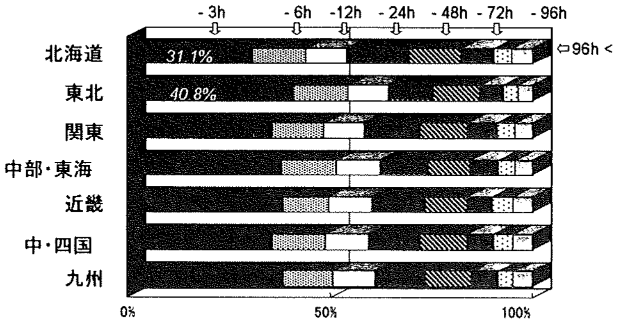


図39 地域別入院病棟

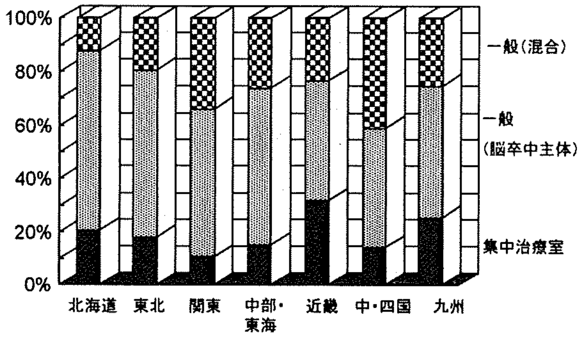


図40 30分以内にCT / MRIの%

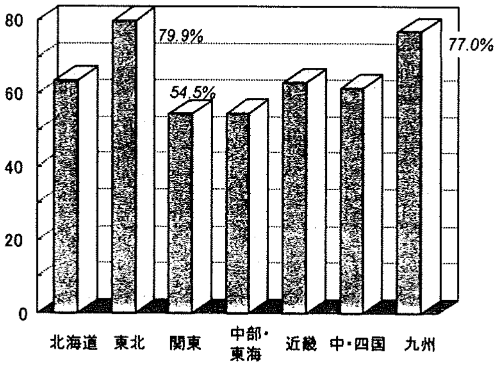


図41 地域別病型の割合

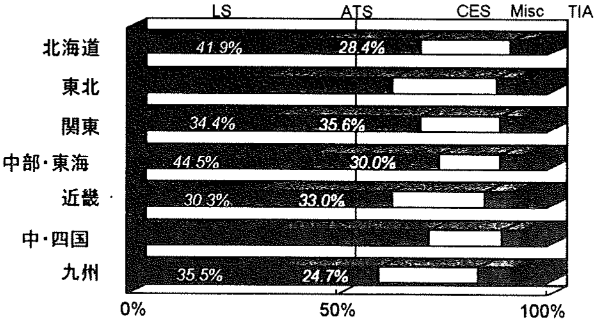


図42 危険因子（1） ー*地域別*ー

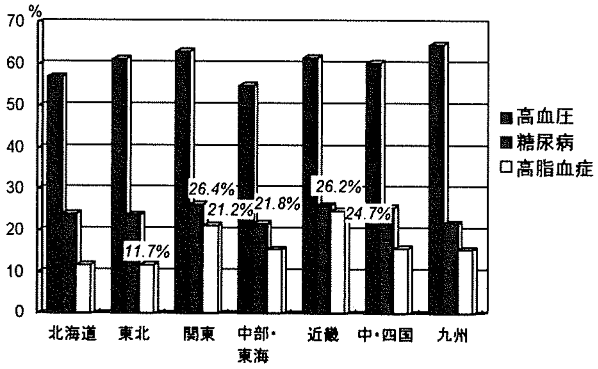


図43 危険因子（2） ―地域別―

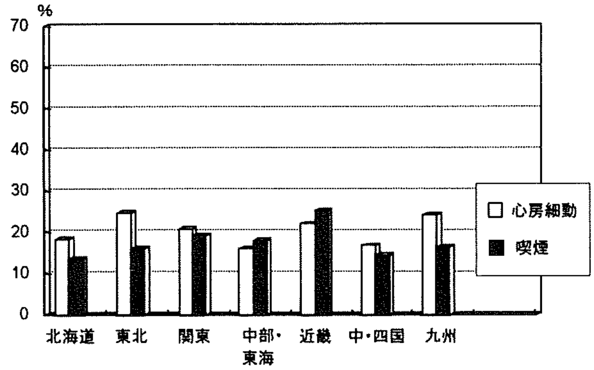


図44 急性期のヘパリン使用

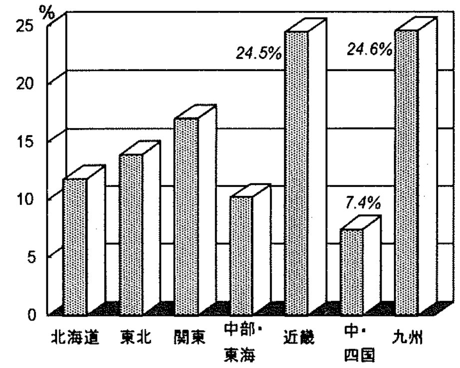


図45 急性期のアスピリン使用

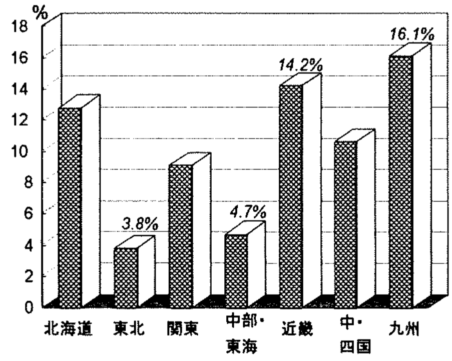


図46 急性期のチクロピジン使用

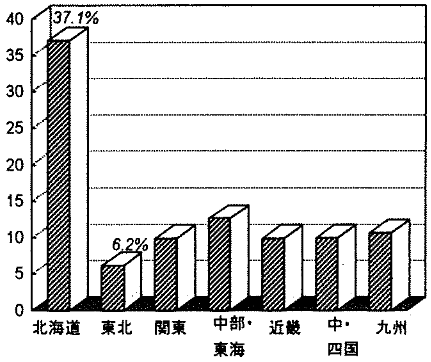


図47 Ozagrel,Argatrobanの使用状況

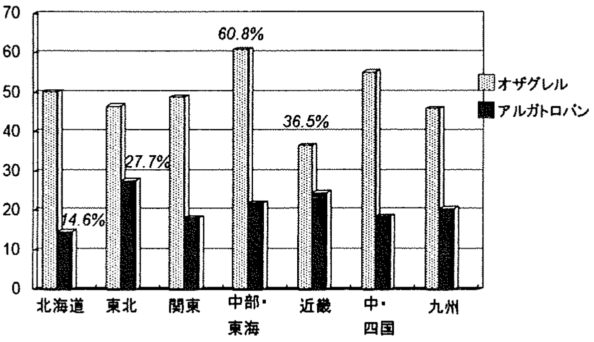
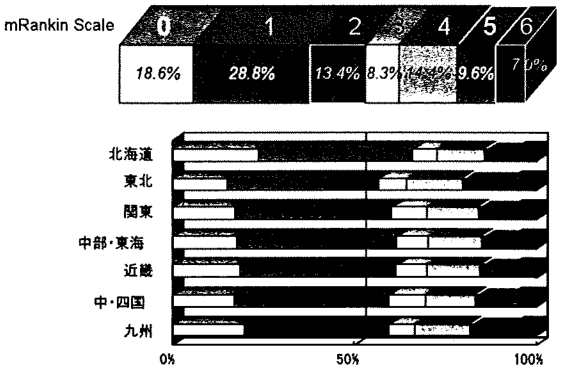



図48 退院時のmRS